

2歳児 B 児 事例②

2歳児B児 事例②

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
大阪 花子	女			<ul style="list-style-type: none"> ・気が散りやすい ・音に過敏に反応する ・表情が豊かで、笑顔が多い 	身体障害者手帳 (手帳 級) 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日			
		R7.4.1			
医療・相談機関		関係機関からの支援や情報			
保護者の願い		支援の目標・内容			
令和7年度 ・友達と仲良く遊んでほしい。		令和7年度 ・安心できる環境の中で保育園生活に慣れていけるように、保育者は子どもの気持ちに寄り添い受け止めていく。 ・保育者や友達と一緒に、好きな遊びを見つけて遊ぶことができるように、保育者が相手の気持ちを伝え、関わり方を知らせていく。 ・「自分でしたい」「自分でできた」という気持ちが育つように、保育者は基本的な生活習慣における困りを見極め、困りに応じた具体的な手立てについて、担任間で連携して考えていく。			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日		保護者名	

(就学前確認欄)

この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。

令和 年 月 日

保護者名

2歳児B児 事例②

(4月 ~ 5月)

(保育園)

児童名 大阪 花子		家庭の様子：第1子の入園ということもあり、保護者も不安が大きいいためか、家でも落ち着きのない様子が多く、布団に入ることを嫌がり眠りも浅い。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 2 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 入園後、慣らし保育を2週間行う。少しずつ、園生活に慣れてきている。 いろいろなことに興味があり、笑顔が多く見られるようになる。 午睡の時間になると落ち着きがなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の布団に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の布団だと分かるように、好きなキャラクターのタオルケットを保護者に準備してもらう。 布団でゆったりと関われる時間をもてるように、好きな絵本を1冊持ってきて良いことを伝えて誘いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のタオルケットが分かり、喜んで布団に入る。 絵本は好きなようで、選んで持ってくるようになる。 音が聞こえると、布団から出ることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に協力してもらえ、家でも同じタオルケットを準備してくれたことで、布団に入ることを嫌がることが減り、ねらいは達成できた。 聴覚に敏感さがあるので、午睡時の環境について担任間で相談し、眠れる手立てを考える。 	
認識	<ul style="list-style-type: none"> 活動中や、活動と活動の間に、他児とは違うところに行くことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の担任が分かる。 活動の終わりを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任のことを認識しやすいようにするために、担任はクラスカラーのTシャツや帽子、クラス名の動物のワッペンなどを身に付ける。 担任間で連携し、可能な限りそばにいて声をかけてやり取りする。 活動が終わることを知らせるために、1つの活動が終わるたびに、担任にハイタッチすることを誘いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任が身に付けているものが、自分が被っている帽子の色と同じということが分かり、「いっしょ～」と言い、担任のそばにいることが増える。 友達には、あまり興味がない。 ハイタッチはあまり喜ばない。 	<ul style="list-style-type: none"> 色は認識できている。 担任に、自分から関わってくるが増え、ねらいは達成できた。引き続き、丁寧に応答することを心がけながら、友達にも目を向けられるような支援を考える。 活動の終わりが分からないことが困りと思ったが、担任と一緒にいることに安心することで、違うところに行くことは少なくなる。このねらいは、適切ではなかった。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

2歳児B児 事例②

児童名 大阪 花子		家庭の様子：布団に入ることが嫌がることは減ったが、眠りが浅くすぐに目覚める。母親に、保育園での話をすることが増えたが、友達のことは話さない。話を聞いてもらえないと、癇癢を起こすことがある。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 2 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分のタオルケットが分かり、喜んで布団に入るようになり、保育者に絵本を読んでもらうことを喜んでいる。 物音が聞こえると落ち着かない様子になり、布団から出ることは続く。他児に比べると眠りが浅く、早く目覚める。 担任が身に付けているものが、自分が被っている帽子の色と同じということが分かり、「いっしょ～」と言って、担任のそばにすることが増える。 1つの活動が終わるたびに、ハイタッチをすることは、あまり喜ばず、担任が求めると、その場から離れていく。 友達にはあまり興味がなく、自分から関わることは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定時間(1時間程度)眠る。 隣に座る友達の名前を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 心地よく入眠できるように、保育室内のできるだけ物音の影響が少ない場所に布団を敷き、パーティション等の囲いも検討する。 パーティションを嫌がることも予測されるので、遊びのコーナーにもパーティションがある場所を設けることで、落ち着ける空間であることを知らせる。 トランポリンを準備し、感覚の刺激を与える。 入眠時間を分析するために保護者と協力し、午睡と夜間の睡眠時間をリストにする。 友達への興味をもたせることができるように担任間で相談し、気が合いそうな子どもを隣同士の席にする。 保育者が意識して互いの名前を呼び、隣の子どもの名前を知らせる。 いろいろな活動でも、席が隣の子どもとペアにして、保育者を仲立ちとして関われる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> パーティションがなくても、絵本の途中で寝入り、50分ほど眠る日が増える。 パズルコーナー(パーティションで囲われた空間)を好み、簡単なパズルを繰り返している。 囲いのない他のコーナーでは、遊びが軽々とする。 給食時に落ち着かないことが増え、立ち歩こうとする。 隣の子どもに興味をもつようになる。 保育者が「Oちゃん(隣の子ども)は、どーこだ？」と聞くと、「こっち～」と指差しをするようになるが、自分から名前を呼ぶことはない。 相手から名前を呼ばれると、嬉しそうな表情になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 決まった場所を固定し、人的・物的環境を意識することで、ねらいは達成できた。 先に遊びの空間にパーティションを設置したことで、パーティションが有効であることが分かり、好きな遊びを見つけることができた。 トランポリンは準備できなかったが、触覚にも敏感さがあると思われるので、刺激を与える活動については慎重に進めていく。 欠席もあったので、連続的な記録は取れなかった。 友達に、興味をもつようになったが、名前を呼ぶことはないので、引き続き、保育者が仲立ちとなって関わりをもっていけるようにする。 家庭でも、意識的に友達の名前を出して、会話してもらうよう働きかける。 	
認識						
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

2歳児B児 事例②

児童名 大阪 花子		家庭の様子：生活リズムが整ってきて、夜も一定時間は眠れるようになる。話を聞いてもらえないと、癇癢を起こす姿は続いており、母親は手を焼いている。好き嫌いがはっきりとしてきて、嫌いなものは絶対に食べない。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 2 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<p>以前は見られなかったが、給食時に落ち着かないことが増え、立ち歩こうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園でも、絵本の途中で寝入り、50分ほど眠る日が増える。物音で目覚めそうになることもあるが、保育者がそばでとんとんとすると、再び入眠する。 ・パズルコーナー（パーティションで囲われた空間）を好み、簡単なパズルを繰り返している。最近、ピースの多いパズルをしていることもある。 ・囲いのない他のコーナーでは集中することが難しいのか、遊びが転々とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定時間は、座って給食を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭のように、好き嫌いをはっきりと主張することはないが、落ち着かない姿を見せるのは、苦手なものがあるからかもしれないので、給食時の様子や献立によっての違いなどを観察して探っていく。 ・食べることの楽しさを大切にしたい支援を優先させることができるように、保育者間で連携して丁寧な観察を行い、座って美味しく食べることができる時間を把握する。 ・「おいしいね」という言葉かけではなく、子どもが自ら発するしぐさや言葉を見逃さず共感する。 			
認識	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の子どもに興味をもつようになり、保育者が「〇ちゃん（隣の子ども）は、どこだ？」と聞くと、「こっち～」と指差しをするようになるが、自分から名前を呼ぶことはない。 ・相手から名前を呼ばれると、嬉しそうな表情になり、保育者の方を見てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣に座る友達の名前を呼ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に興味をもつようになったが、名前を知ることができるように「こっちは〇ちゃん（隣のこども）、こっちは△ちゃん（対象児）ね～」と引き続き名前を知らせる機会を多くもち、保育者が仲立ちとなって関わりをもっていけるようにする。 ・家庭でも、意識的に友達の名前を出して、会話してもらうよう働きかける。 			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

2歳児 B 児 事例② ポイント挿入

在園期間中、この1枚に年度ごとに追記する。

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
大阪 花子	女	入所年月日 R7.4.1		<ul style="list-style-type: none"> ・気力散りやすい ・音に過敏に反応する ・表情が豊かで、笑顔が多い 	身体障害者手帳 (手帳 級) 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
<p>施設内での検討時や、保護者との支援会議の際にも、氏名記入のまま行うことで、該当児童以外の計画と混同することを防ぐことができる。但し、個人情報の取り扱い及び管理には特段の注意を払う。</p>		<p>診断名等だけでなく、子どもの特性の他に得意なことも記載しておくこと、子ども理解につながり計画が立てやすくなる。</p>		<p>手帳を取得していない場合は、この欄の内容は削除せず、手帳を取得した時点で、該当箇所には○や必要内容を記載する。印字されていない様式の場合は、取得した時点で記載する。</p>	
<p>保護者から聞き取った内容を、そのまま書く。保護者との共有が難しい段階であれば、普段の会話から汲み取れる内容を記載する。</p>			<p>「保護者の願い」を汲み取りながら、対象児の育ちを様々な情報から総合的に判断する中で「支援の目標・内容」を決めていくので、必ずしも「保護者の願い」一つ一つに対する支援が必要なわけではない。また、「保護者の願い」とは違う視点での「支援の目標・内容」を考えていくことが必要な場合もある。</p>		
保護者の願い			支援の目標・内容		
令和7年度 ・友達と仲良く遊んでほしい。			令和7年度 ・安心できる環境の中で保育園生活に慣れていけるように、保育者は子どもの気持ちに寄り添い受け止めていく。 ・保育者や友達と一緒に、好きな遊びを見つけて遊ぶことができるように、保育者が相手の気持ちを伝え、関わり方を知らせていく。 ・「自分でしたい」「自分でできた」という気持ちが育つように、保育者は基本的な生活習慣における困りを見極め、困りに応じた具体的な手立てについて、担任間で連携して考えていく。		
<p>この計画内容を確認しました。</p>			<p>就学前教育カリキュラム P47.48 「2歳児カリキュラム」参照</p> <p>支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。</p>		
令和 年 月 日			保護者名		

(就学前確認欄)

この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。

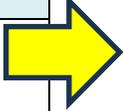
令和 年 月 日 保護者名

2歳児B児 事例② (ポイント挿入)

(4月)

家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。施設での子どもの姿とリンクしていると、保護者と一緒に手立てを共有することができる。

項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
生活	<p>子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入園後、慣らし保育を2週間行う。少しずつ、園生活に慣れてきている。 いろいろなことに興味があり、笑顔が多く見られるようになる。 午睡の時間になると<u>落ち着きがなくなる。</u> 	<p>家庭の様子：第1子の入園ということもあり、保護者も不安が大きいいためか、家でも<u>落ち着きのない様子が多く、布団に入ることを嫌がり眠りも浅い。</u></p> <p>次のサイクルまでに達成できそうな「ねらい」をスモールステップで立てる。評価しやすいように、言い切りの文章にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の布団に入る。 	<p>下線部分の姿は、生活面での施設での姿と一致している。</p> <p>支援と手立ては、人的・物的環境面と、援助面の両面から考えることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の布団だと分かるように、好きなキャラクターのタオルケットを保護者に準備してもらう。 布団でゆったりと関われる時間をもてるように、好きな絵本を1冊持ってきて良いことを伝えて誘いかける。 	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。</p> <p>支援・手立てを行った結果、対象児にどのような状況が見えているのかを具体的に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のタオルケットが分かり、喜んで布団に入る。 絵本は好きなようで、選んで持ってくるようになる。 音が聞こえると、布団から出ることがある。 	<p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に協力してもらえ、家でも同じタオルケットを準備してくれたことで、布団に入ることを嫌がるのが減り、ねらいは達成できた。 聴覚に敏感さがあるので、午睡時の環境について担任間で相談し、眠れる手立てを考える。 色は認識できている。 担任に、自分から関わってくるが増え、ねらいは達成できた。引き続き、丁寧に応答することを心がけながら、友達にも目を向けられるような支援を考える。 活動の終わりが分からないことが困りと思ったが、担任と一緒にいることに安心することで、違うところに行くことは少なくなる。このねらいは、適切ではなかった。
認識	<ul style="list-style-type: none"> 活動中や、活動と活動の間に、<u>他児とは違うところに行くことがある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 眠くない 寝るのが嫌 自分の布団が分からない 自分の担任が分かる。 活動の終わりを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任のことを認識しやすいようにするために、担任はクラスカラーのTシャツや帽子、クラス名の動物のワッペンなどを身に付ける。 担任間で連携し、可能な限りそばにいて声をかけてやり取りする。 活動が終わることを知らせるために、1つの活動が終わるたびに、担任にハイタッチすることを誘いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任が身に付けているものが、自分が被っている帽子の色と同じということが分かり、「いっしょ～」と言い、担任のそばにすることが増える。 友達には、あまり興味がない。 ハイタッチはあまり喜ばない。 	<p>「児童の姿」からくる困りを見極めて「ねらい」を立て、「ねらい」に応じた必要な「項目」を選ぶ。</p> <p>「ねらい」は多くても2つくらいが適切である。0～2歳児は1つでも良い。短いサイクルで達成できることで、子どもも保育者も達成感を感じることができる。</p>



下線部分の姿を、「なぜ？」の視点から見直すことが子ども理解につながり、アセスメントの方法を探っていくことができる。

- 眠くない
- 寝るのが嫌
- 自分の布団が分からない

「具体的な支援・手立て」は、**教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。**

具体的な評価をしておくことで、次月につなげていける。

この計画内容を確認し

保護者名

下線部分の姿は、生活面での施設での姿と一致している。

「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。

前月からのつながり

スモールステップで、具体的なねらいを立てる。

前月の「評価・今後の課題」に記載した内容を、次月の「具体的な支援・手立て」欄に具体的に記載する。

家庭の様子：布団に入ることが痛がることは減ったが、眠りが浅くすぐに目覚める。母親に、保育園での話をするが増えたが、友達のことは話さない。話を聞いてもらえないと、癇癪を起こすことがある。

児童名 ナカノ サマ	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
<p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のタオルケットが分かり、喜んで布団に入ようになり、保育者に絵本を読んでもらうことを喜んでいる。 物音が聞こえると落ち着かない様子になり、布団から出ることは続く。他児に比べると眠りが浅く、早く目覚める。 担任が身に付けているものが、自分が被っている帽子の色と同じということが分かり、「いっしょ～」と言って、担任のそばに居ることが増える。 1つの活動が終わるたびに、ハイタッチをすることは、あまり喜ばず、担任が求めると、その場から離れていく。 友達にはあまり興味がなく、自分から関わることは少ない。 <p>認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一定時間(1時間程度)眠る。 <p>成長と課題を「児童の姿」にきちんと書くことで、保護者とともに、成長を確認し、次の課題に向けた支援を考えることができる。</p>	<p>具体的な支援・手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 心地よく入眠できるように、保育室内のできるだけ物音の影響が少ない場所に布団を敷き、パーティション等の囲いも検討する。 パーティションを嫌がることも予測されるので、遊びのコーナーにもパーティションがある場所を設けることで、落ち着ける空間であることを知らせる。 トランポリンを準備し、感覚の刺激を与える。 入眠 午睡と夜間の睡眠時間をリストにする。 友達に興味をもたせることができるように担任間で相談し、気が合いそうな子どもを隣同士の席にする。 保育者が意識して互いの名前を呼び、隣の子どもの名前を知らせる。 いろいろな活動でも、席が隣の子とペアにして、保育者を仲立ちとして関われる機会をつくる。 	<p>具体的な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> パーティションがなくても、絵本の途中で寝入り、50分ほど眠る日が増える。 パズルコーナー(パーティションで囲われた空間)を好み、簡単なパズルを繰り返している。 囲いのない他のコーナーでは、遊びが軽々とする。 給食時に落ち着かないことが増え、立ち歩こうとする。 <p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p>	<p>評価・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 決まった場所を固定し、人的・物的環境を意識することで、ねらいは達成できた。 先に遊びの空間にパーティションを設置したことで、パーティションが有効であることが分かり、好きな遊びを見つけることができた。 トランポリンは準備できなかったが、触覚にも敏感さがあると思われるので、刺激を与える活動については慎重に進めていく。 欠席もあったので、連続的な記録は取れなかった。 友達に、興味をもつようになったが、名前を呼ぶことはないので、引き続き、保育者が仲立ちとなって関わりをもっていけるようにする。 家庭でも、意識的に友達の名前を出して、会話してもらうよう働きかける。 	
<p>この計画内容を確認しました。</p>	<p>担任との信頼関係を基盤として、次は友達との関わり第1段階をねらいにする。</p>	<p>「具体的な支援・手立て」は、教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。</p>	<p>保護者名</p>	<p>次の月につなげることを意識して、「評価・今後の課題」を記載する。</p>	

成長と課題を「児童の姿」にきちんと書くことで、保護者とともに、成長を確認し、次の課題に向けた支援を考えることができる。

新たに見えてきた姿を記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。

「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。

「具体的な支援・手立て」は、教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

次の月につなげることを意識して、「評価・今後の課題」を記載する。

2歳児B児 事例② (ポイント挿入)

7月 ~ 8月

午睡時の困りは一定、軽減され、生活面での困りとして、家庭での姿に変化が見られる。

保育園)

前月からの
つながり

評価・今後の課題

児童名	園長	担任(作成者)		
<p>前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。</p>	<p>家庭の様子：生活リズムが整ってきて、夜も一定時間は眠れるようになる。話を聞いてもらえないと、癪癪を起す姿は続いており、母親は手を焼いている。好き嫌いがはっきりとしてきて、嫌いなものは絶対に食べない。</p>	<p>支援や手立ての内容は具体的に書くことで、担任間はもちろん、補助等でクラスに入る保育者とも共有でき、どの職員であっても同じ支援をすることができる。</p>		
<p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は見られなかったが、<u>給食時に落ち着かないことが増え、立ち歩こうとする。</u> ・保育園でも、絵本の途中で寝入り、50分ほど眠る日が増える。物音で目覚めそうになることもあるが、保育者がそばでとんとんとすると、再び入眠する。 ・パズルコーナー（パーティションで囲われた空間）を好み、簡単なパズルを繰り返している。最近は、ピースの多いパズルをしていることもある。 ・<u>囲いのない他のコーナーでは集中することが難しいのか、遊びが転々とする。</u> 	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定時間は、座って給食を食べる。 	<p>具体的な支援・手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭のように、好き嫌いをはっきりと主張することはないが、落ち着かない姿を見せるのは、苦手なものがあるからかもしれないので、給食時の様子や献立によっての違いなどを観察して探っていく。 ・食べることの楽しさを大切にしたい支援を優先させることができるように、保育者間で連携して観察を行い、座って美味しく食べることができる時間を把握する。 ・「おいしいね」という言葉かけではなく、子どもが自ら発するしぐさや言葉を見逃さず共感する。 	<p>具体的な状況</p>	<p>評価・今後の課題</p>
<p>認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の子どもに興味をもつようになり、保育者が「〇ちゃん（隣の子ども）は、どこだ？」と聞くと、「こっち～」と指差しをするようになるが、<u>自分から名前を呼ぶことはない。</u> ・相手から名前を呼ばれると、嬉しそうな表情になり、保育者の方を見てくる。 	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれ、困りが大きくなるかもしれない姿だが、この姿に対しては、今はねらいを立てない。 	<p>具体的な支援・手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に興味をもつようになったが、名前を知ることができるように「こっちは〇ちゃん（隣のこども）、こっちは△ちゃん（本児）ね～」と、引き続き名前を知らせる機会を多くもち、保育者が仲立ちとなって関わりをもっていけるようにする。 ・家庭でも、意識的に友達の名前を出して、会話してもらうよう働きかける。 	<p>具体的な状況</p>	<p>評価・今後の課題</p>
<p>この計画内容を確認しました。</p>	<p>前月の「評価・今後の課題」に記載した内容を、次月の「具体的な支援・手立て」欄に具体的に記載する。</p>	<p>保護者名</p>	<p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> <p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> <p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。</p> <p>具体的な評価をしておくことで、次月につなげていける。</p>	